

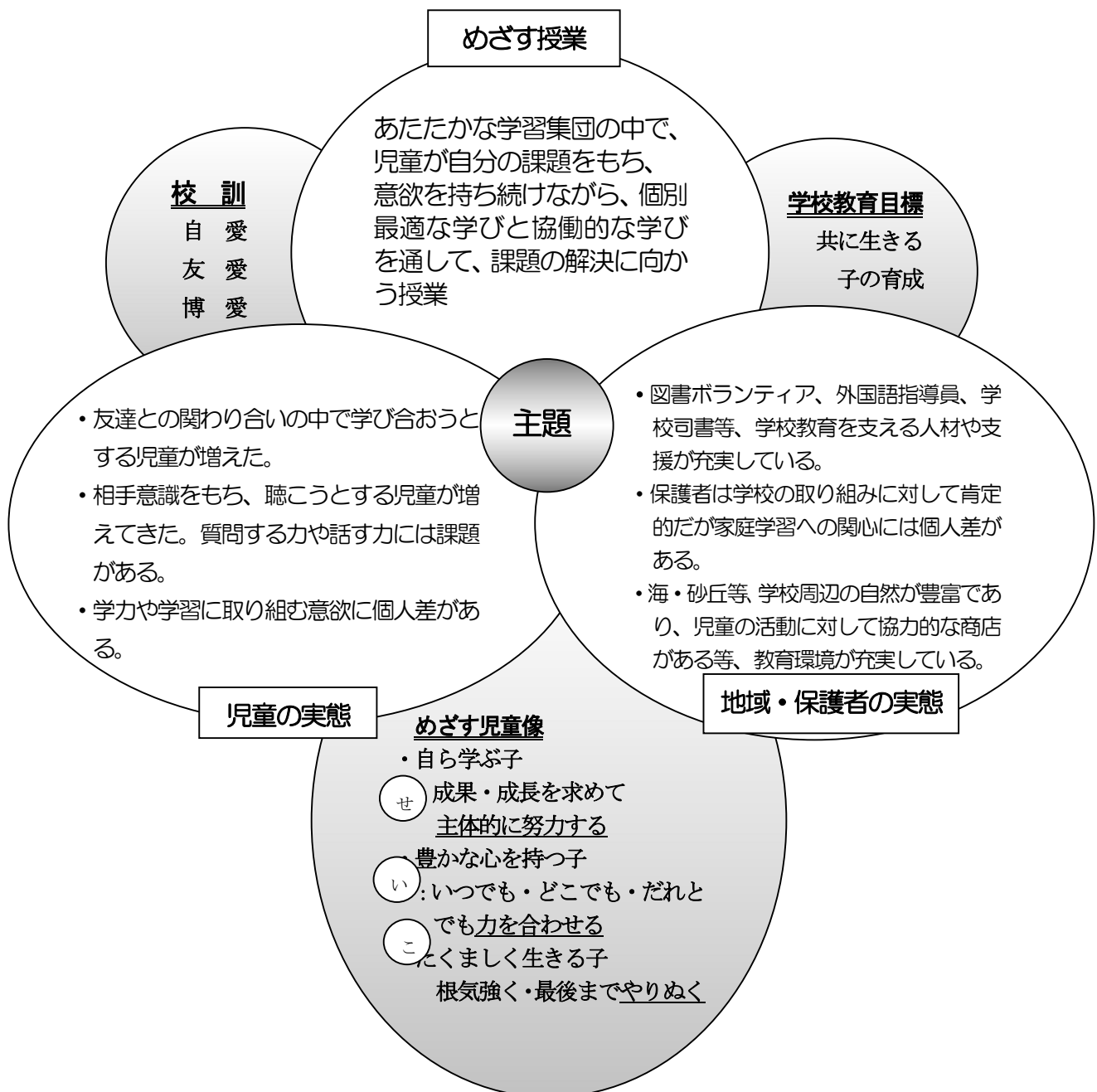
V 現職教育

1. 研究主題

自ら考え、関わり合う子の育成

～子供主体の学び合いをめざして～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校では、令和2年度から研究主題を「自ら考え、学び合う子をめざして」とし、副題を「わかった、できたと実感できる授業づくり」として、実践を積み重ねてきた。令和6年度からは、研究主題を「自ら考え、学び合う子の育成」、副題を「子供主体の授業づくりをめざして」に変更し、研究を進めてきた。その際、研究の視点として重点【考えを広げたり、深めたりする工夫】を掲げ、取り組んできた。

その成果と課題として、以下の点が挙げられる。

成果

昨年度の大きな学びとして、単元ごとに教科等の見方・考え方を踏まえた共通の軸を設定し、授業づくりシートに記入、ふり返しをしたことで、ねらいに迫るための手立てを考えることができた。有効的だった手立ての一つに児童の実態に合った場や環境の設定がある。考える場や学び合える環境を意図的に整えることで、児童が主体的に関わり合い、自分の考えを深める様子が見られた。

また、ICTの有効性も確認できた。友達と考えを共有し話し合ったり、友達のカードを見て自ら学んだりすることで、単元の前と後、授業の前と後などに考えや姿勢に変容が見られた。さらに、ICTは多様なふり返りの仕方を可能にし、児童が参考にしたたり、教師に変容を見取ったりすることに役立った。

環境を設定し、自由に交流する時間やICTで交流する時間など、昨年度、主体的に学べるように様々な工夫を行うことができたが、その際、児童がねらいに向かっていけるよう視点を明確にもたせることが不可欠だと感じた。

課題

昨年度は設定した共通の軸に沿って授業を進めたが、実態と合わないことがあったり、児童が意欲をもったまま課題解決に向かって考え続けたりすることが難しいと分かった。意欲を持続させるには、単元の途中であっても児童の思考のステップに沿ってゴールを設定し直したり、全体交流後新たに考えたいような問いかけをしたりするなどの工夫が必要である。また、児童がさらに試してみたり、質問し合って考えを構築したりできるような時間を確保することが大切である。

本校のカリマネの目標は「自ら考え、関わり合う力の育成」である。しかし、縦割りでの活動が少なくなったこともあり、一步勇気を出して踏み出し、クラスの中や学年を越えて関わろうとする思いがもてない児童も見られた。自ら考え、友達と関わり合って学びたいと児童が意欲を持てるようなチャレンジしがいのある課題や仕掛けを作っていかなければならない。そして、児童が安心して授業の中で主体的に関わり学び合い、ねらいが達成できるような授業づくりを目指していきたい。

これらの成果と課題をふまえ、今年度は、研究主題を「自ら考え、関わり合う子の育成」副題を「子供主体の学び合いをめざして」と設定した。

主体的に関わり合うということを教育活動の土台として生徒指導や特別活動、保健安全などの様々な方向から目指していくことを昨年度より継続していく。その中で、学習での関わり合いは「学び合い」であると考え、子供が自ら学び合いたいと思える手立てを追及していく。

本校が考える「自ら考え、関わり合う子」とは、

「自ら考える子」…主体的に自分の課題を設定し、既習を活用したり情報を収集したりして解決に向けて考える子
「関わり合う子」…主体的に友達と多様な考えを交わしながら、個人や集団でより良い考えを形成できる子

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子供達一人一人に獲得させたい。

3. 研究の仮説

児童の「知りたい」「考えたい」「学びたい」という意欲が継続し、課題解決の達成感を味わうことで、子供主体の「学び合い」の授業に近づけるであろう。

4. 研究の重点と具体的な取組

目指すのは、「児童が自ら学び合う姿」である。

その実現のために、今年度は、研究の重点を「意欲が継続できるような工夫」に設定する。考えの場から脱落してしまう子、自分の考えをもってそこで満足し、それ以上は考えることをやめてしまう子、聴くことで友達から何か学び取りたいという意欲がない子などに対してどんな手立てができるのか考えていく。研究を進めていくことで、児童の学びが深まることを期待する。また、教科の本質的な楽しさを知り、より主体的に学びに向かっていくことで児童が学習の基礎基本を身に付け、自らの学びや成長を実感できるようにしていきたい。

【重点】意欲が継続できるような工夫

- ・環境整備（場の設定）
- ・意図的な話し合いの設定、形態
- ・ICTの活用
- ・「聞きたい」「知りたい」と思えるしかけ、ゴールの設定
- ・話し合いに目的や視点をもたせる
- ・価値付け
- ・ふり返りの工夫・ふり返りの場の保障
- など

研究を推進するための取組として、日々の授業では、本単元における授業構想を授業づくりシートに明記する。この単元で育てたい教科の見方・考え方をもとにし、単元を貫く共通の軸を設定する。その軸にのって児童が意欲的に課題解決できるように、どのような手立てを打っていくのか具体的に書く。授業後は、その手立てが有効であったかをふり返る。

授業づくりシートは、職員室に掲示し、共通の軸の設定や授業の組み立て方を全教員で共有できるようにしたい。

また、研究授業では、指導案に重点を明記し、授業に臨む。参観者は、『意欲が継続できるような工夫』を感じられる学び合いになっていたか」といった視点で授業を参観し、整理会で話し合う。ふり返りや成果物を通して見取りを行っていききたい。これらの取組を通して見えてきた成果と課題をタイムリーに全体共有することで、有効な方策を積み上げていく。

学び合いを支えるために、「やさしい話し方・聴き方」の取組も継続して行っていく。今年度も生徒指導と連携し、相手意識をもった思いやりのある話し方や聴き方を大切にしていく。その上で、考えを広げたり、深めたりするために、意見を比べるなど思考を伴う話し方や聴き方も育成していく。

5. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

(1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

- ・8:10～8:25の15分間、担任の指導のもと、取り組む
- ・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

曜 日	内 容	
月	読 書	・読書 年齢に合った読書のすすめ
火	国語・算数 理科・社会	★基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・くり返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 (国語) 漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など (算数) 四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など
水		★活用力向上のための課題 (学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用) ★弱点補強問題 (学力向上プログラム、各学力調査過去問題、スマートスクールネット等)
木	読 書	・読書 ・ALT、外国語指導教員による外国語の絵本や国際理解の本の読み聞かせ ・読書ボランティアの方や教員による本の読み聞かせ
金	読解力 思考力アップ	・全校で購入したドリルを実施し、読解力、思考力、国語力の向上をねらう。 (1年生は2学期から)

② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・学年に応じて、自己調整力をつけることができるように、課題の出し方を工夫
- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間をめやすとし、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定
漢字の書き取り・基礎的な四則計算の学習など
- ・学習日より「CATCHBALL」などでステップアップ満点賞の表彰、自学ノートの紹介
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

③ 読書活動の充実を図る

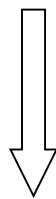
- ・朝読書（毎週月曜・木曜）の設定
- ・図書室イベントの開催
- ・地域ボランティアによる「お話会」、外国語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」
- ・家族読書の日の設定（GW・冬休みの家族読書）

④弱点克服の取組を実施

- ・重点項目（評価規準に赤字で掲載）を学年会等で事前に確認し、教師用教科書（朱書き）に付箋を貼る（付箋等に弱点ポイント、苦手な問題の番号等書き込む）授業で実践し、定着を図る
- ・朝学習や授業で克服を図る
弱点の補強、くり返し学習、学力調査問題の活用
- ・到達目標に達していない児童への個別指導（給食準備中「がんばりタイム」木曜放課後「さよならタイム」等）

⑤ノート指導の充実

- ・ノートの書き方についての共通指導
- ・より良いノート作りのためのノート（ICT）
 - 5月 丁寧で見やすいノート
 - 7月 課題にぴったりのまとめが書かれているノート
 - 10月 友達の名前や考えが表れたノート
 - 12月 根拠や理由をもとに自分の考えが表れているノート
 - 2月 「前は～だったけど、今は～になった」学びの変容が自覚できるノート



今年度もレベルアップを目指していく。

（2）教師の指導力の向上を図る

①授業研究の実施

- ・研究は研究の重点を中心に協議を行う
- ・授業整理会後の成果と課題を終礼等で2週間以内に共有し、明確になったことを共通実践に生かす
- ・日常的に授業研究を進められるよう「授業づくりシート」を用いて、研究の重点を意識して取り組む
- ・年に2回、相互授業参観週間を設定する

②校内職員研修の実施

- ・全職員が参加し、組織的に実施
(研究の重点の取組を紹介し合う、研修の成果を報告する、分析交流 など)

（3）よりよい実践を積み重ねていくための検証方法

検証問題や児童の姿、アンケート等などを活用して検証を行い、その結果をもとに、様々な取組や研究推進体制の改善を図る

① 単元末テスト・教科等の資質・能力育成シート

- ・児童の正答率・解答状況を検証して課題を把握し、改善につなげる
- ・児童の課題を全体共有し、検証問題を選定。学期末の結果を評価し、指導に生かす

②漢字・計算ステップアップ週間

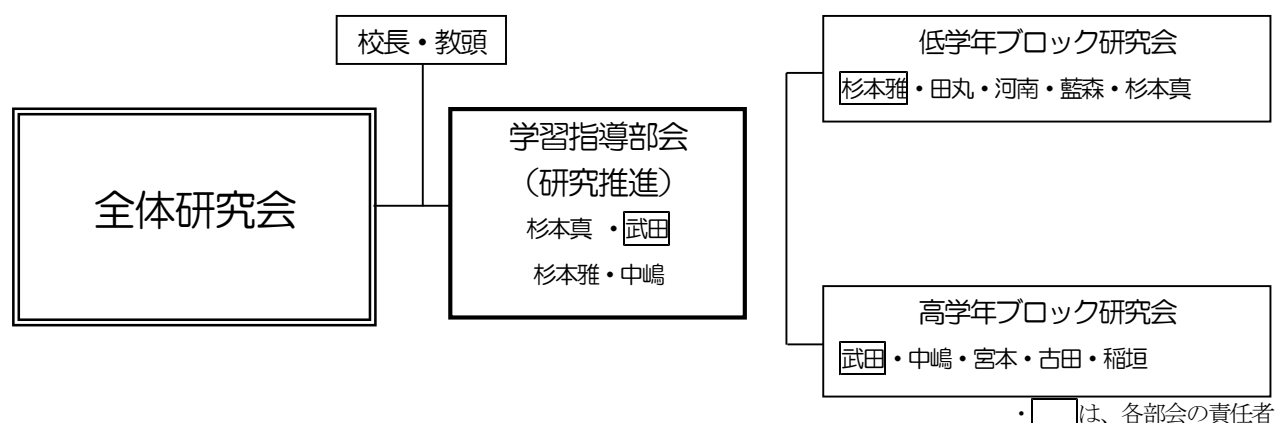
- ・計 算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

② 学校評価、児童・教職員アンケート

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

満点賞を表彰
表彰状作成&学習
だよりに記載

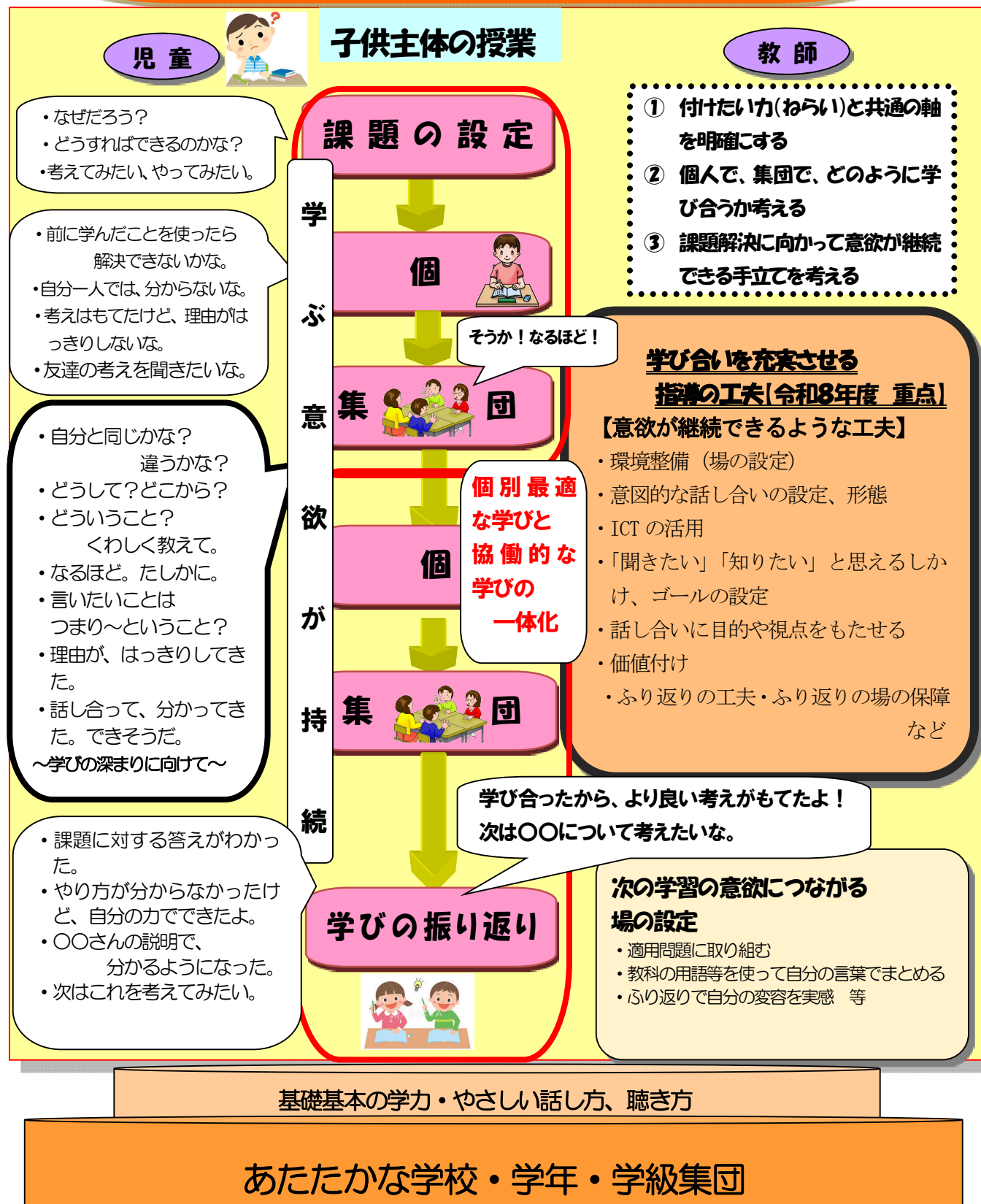
6. 研究の組織と活動内容



- ・低・高学年の「ブロック研究会」を組織する
- ・ブロック研究会に、学級担任、級外が所属する
- ・全員が、校内研究授業を1回ずつ行う
- ・各ブロック各1回全体研究授業を行い、校内研究の視点・重点の具体化について、共通理解の場とする
- ・研究授業では、自分で取り組むor 共同で取り組むを選択し、事前研究会・事後研究会をもつ。また、全体研（低・高から1本ずつ）、特別支援学級、若プロの研究授業について外部講師を招聘し、指導・助言をいただくことで研究の充実を図る
- ・全体研究授業は、全職員が参加する。ブロック研究授業には、当該ブロック研究会に所属する職員が参加する。なお、他ブロックに所属の職員も、各研究授業を積極的に参観するように努める
- ・研究授業前の終礼で、授業者は授業のねらいや手立てについて話し、参観を呼びかける
- ・事後研究会の後は2週間以内に考察を職員に配布し、成果と課題について全体共有する

7. 研究構想図(清湖小授業スタイル)

自ら考え、関わり合う子の育成



8. 年間活動計画案

会 月	学習指導部関係	研究授業等関係	
		低学年	高学年
4月	- 研究組織と役割分担 - 研究主題・研究の重点の共通理解 - 年間研究計画案作成 - 国・県学力調査の実施（4・6年）採点・分析 - 町学力調査の実施（5年）採点・分析 - 提案授業	杉本雅（国語）	
5月	- 指導案形式の共通理解 - 学習掲示 - 家庭学習・計算ステップアップ週間①		宮本（算数）
6月	家庭学習・漢字ステップアップ週間②	河南（体育）	古田（国語）
7月	- 学習掲示 - 児童アンケート・学力向上アンケート（教師） - 資質・能力育成シート検証問題の実施・分析 - ブロック研究会（1学期のふり返り・取組内容の報告）		
8月	- 学力調査詳細分析 - 全体研究会（1学期の成果と課題・2学期に向けて）		
9月	学習掲示	田丸（算数）	
10月	家庭学習・計算ステップアップ週間③	藍森（自立）	稲垣（自立）
11月	- 学習掲示 - 家庭学習・漢字ステップアップ週間④	杉本真（理科）	中嶋（国語） 武田（総合）
12月	- 資質・能力育成シート検証問題の実施・分析 - 評価問題Ⅰ（5年）実施、採点・分析 - ブロック研究会（2学期のふり返り・取組内容の報告） - 児童アンケート・学力向上アンケート（教師）		
1月	- 全体研究会（3学期に向けて・検証問題分析） - 研究の成果とまとめ		
2月	- 家庭学習・漢字ステップアップ週間⑤ - 全体研究会（今年度の振り返り・次年度にむけて） - 学習掲示		
3月	- 資質・能力育成シート検証問題の実施・分析 - 児童アンケート・学力向上アンケート（教師） - 研究紀要作成 - 全体研究会（次年度の方向性）		